

特別支援学校等

令和5年度

# 教育研究員研究報告書

知的障害教育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
	1 基礎研究	3
	2 実践研究	3
	3 検証方法	3
V	研究構想図	4
VI	研究の内容	5
	1 基礎研究	5
	2 実践研究	7
VII	研究の成果と課題	16

## 研究主題

# 自他の理解を深め、他者と関わろうとする 児童・生徒を育むための指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）において、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が求められている。また、東京都教育施策大綱（東京都教育委員会 令和3年3月30日）では、【「未来の東京」に生きる子供の姿】として、「他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」と示されている。その「求められる資質」として、「多様な人々が共に暮らす社会においては、様々な背景や価値観を持つ人が、違いを認め合いながら、支え合うこととなります。そのような社会を生きる子供たちには、自分をありのままに受け止めるとともに、他者を大切にし、お互いを理解、尊重する気持ちを育てることが重要です」と示されている。

本研究では、まず知的障害のある児童・生徒の現状として二つのことを取り上げた。一つは、障害特性や経験の不足等から自他の理解が十分ではないことがある。それにより、話合いの際に自分の意見を伝えられなかったり、相手の意見を受け入れることができなかったりするため、児童・生徒間による主体的・協働的な学びが十分に行われていないことである。もう一つは、障害特性などから自信をもてず、他者と関わろうとする意欲が十分に育っていない児童・生徒が多いことである。この現状を踏まえ、児童・生徒が自他の理解を深め、他者と関わろうとするための指導の工夫が必要であることを課題として挙げた。本研究では、知的障害の特別支援学級や特別支援学校に在籍する児童・生徒が、協働的な学びを通して、社会生活を送る上で大切な他者との関わりを充実させることに視点を当てることとした。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編には「自己に対する知識やイメージは、様々な経験や他者との比較を通じて形成されていく。障害のある幼児児童生徒は、障害による認知上の困難や経験の不足等から自己の理解が十分でない場合がある。」とある。このことから、自己理解を深めるためには、他者と比較して自己を見ていく経験が必要であり、その機会としての「話合い活動」に注目した。授業中での話合い活動を通して、自分の気付いていないよい点を他者から指摘されることにより、自己理解が深まっていくと考えた。また、他者からよい点を認めてもらうことで、他者へ関心が向き、他者理解が進むきっかけとなると考えた。自己理解が進み、自分のよいところを自他に認められるようになると、自信をもって人と関わられるようになる。そこで、自ら他者と協力しようとしたり、自分のできないことを他者に援助要請を行ったりしながら、互いに協力し合える児童・生徒の姿を本研究の目指す児童・生徒像とした。そのためには児童・生徒一人一人の実態にあった支援や指導法が必要不可欠である。以上のことから知的障害教育部会の課題解決を図るための研究主題を「自他の理解を深め、他者と関わろうとする児童・生徒を育むための指導の工夫」とした。

## II 研究の視点

### 1 自他の理解、他者との関わりの状況を教員が適切に把握できる方法の研究（実態把握に関する先行研究の調査）

本研究では、児童・生徒が自他の理解を深め、他者と関わろうとするために、育てたい必要な力を分類して整理した。また、児童・生徒の状況を適切に把握できる方法を検討するとともに、実際の指導の中で生かし、その有効性について検証することとした。

そこで先行研究である「自尊感情や自己肯定感に関する研究」（東京都教職員研修センター平成20年度）の中に示された、自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」及び平成23年度（第4年次）の研究で作成された「他者評価シート」について調査・研究を行った。その上でこの先行研究を、児童・生徒の実態把握に活用した。先行研究の調査を踏まえ、内容や項目を精査し、自他の理解や他者との関わりに関する児童・生徒の実態を把握するためのチェック項目（以下「チェック項目」という。）を作成していくこととした。

特別支援学級・特別支援学校に在籍する児童・生徒は、自己を客観的に見つめ、評価することが困難である場合が多い。よって、教員による評価を参考に自己を捉え直したり、友達と関わる中で自己の特性やよさに気付いたりすることができるような取組の工夫が必要である。本研究では「自他の理解」「他者との関わり」について、児童・生徒自身が変容を実感できるような指導を目指したいと考え、教員による評価だけでなく、児童・生徒自身が、自身の学びを振り返り、成長を実感できるような指導を工夫していくことが必要であると考えた。

### 2 自他の理解を促す指導や他者との関わりを重視した授業の実践とその検証

研究において、知的障害のある児童・生徒の発達段階に即した指導改善を目指した。そこで、小学校特別支援学級（低学年）、小学校特別支援学級（高学年）、中学校特別支援学級、特別支援学校高等部においてそれぞれ単元を設定して検証授業を行い、幅広い年齢や発達段階の児童・生徒に生かせる実践を目指した。

授業を行うにあたって、事前に授業者がチェック項目を使用して実態把握を行い、その結果から、児童・生徒の課題に応じて検証の対象となる授業を選定することとした。チェック項目の効果的な活用方法や活用場面を検討していくため、小学校特別支援学級（低学年）では学級活動において、合意形成を目指した話し合い活動、小学校特別支援学級（高学年）では生活単元学習、中学校特別支援学級では特別の教科 道徳において、テーマに基づいた意見交換、特別支援学校高等部では作業学習において、共通の目標に向かう課題等を設定した授業を行い、児童・生徒が自分のことや友達のことを意識しながら互いに関わりをもてるような活動を取り入れた。また、実態把握に基づいて設定した自他の理解や他者との関わりについての目標を意識できるようにする必要がある。そのため、毎授業時間の導入やまとめの中で、児童・生徒自身が振り返りを行うためのシート（以下「振り返りシート」という。）等を使って確認できるようにした。以上の授業実践について、児童・生徒の変容を見取り、有効性について検証していくこととした。

### Ⅲ 研究の仮説

自分や相手のことを考え話す活動や、他者と関わる機会を取り入れた活動を、児童・生徒の実態に応じながら工夫して行うことで、自他の理解を深め、他者と積極的に関わろうとする児童・生徒を育むことができるだろう。

### Ⅳ 研究の方法

#### 1 基礎研究

研究仮説を検証するための基礎研究として、次のことを行うこととした。

- (1) 障害のある児童・生徒の自他の理解に関する基礎事項を整理する。
  - ア 特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説自立活動編
  - イ 自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」「他者評価シート」
- (2) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を作成する。

#### 2 実践研究

- (1) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を活用して、授業実践を検討する。
- (2) 授業実践（4回実施）
  - ア 小学校知的障害特別支援学級（低学年）「特別活動（学級活動）」
  - イ 小学校知的障害特別支援学級（高学年）「生活単元学習」
  - ウ 中学校知的障害特別支援学級 「道徳科」
  - エ 知的障害特別支援学校高等部 「作業学習」

#### 3 検証方法

検証方法は次のことを行うこととした。

- (1) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を用いて実態の把握と、実態に応じた指導内容・方法の検討
- (2) 児童・生徒の変容から授業実践を検証（検証授業）
- (3) 授業実践の検証から、研究主題に迫るための指導方法の整理・考察

## V 研究構想図

共通研究テーマ：全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

現状と課題	関連法令・施策等
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害のある児童・生徒は、障害特性や経験の不足等から自他の理解が十分ではないことがある。そのため、話し合いの際に自分の意見を伝えられなかったり、相手の意見を受け入れることができなかったりするなど、主体的・協働的な学びが十分には行われていない。</li> <li>自信のなさや障害特性などから他者と関わろうとする意欲が低い児童・生徒が多い。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒が自他の理解を深め、他者と関わろうとするための指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領</li> <li>○ 特別支援学校学習指導要領</li> <li>○ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (文部科学省 平成29年4月)</li> <li>○ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申) (中央教育審議会 令和3年1月)</li> <li>○ 東京都教育施策大綱 (東京都教育委員会 令和3年3月)</li> </ul>

研究主題「自他の理解を深め、他者と関わろうとする児童・生徒を育むための指導の工夫」

### 研究の視点

- 1 自他の理解や他者との関わりの状況を教員が適切に把握できる方法の研究(実態把握に関する先行研究の調査)
- 2 自他の理解を促す指導や他者との関わりを重視した授業の実践とその検証

### 研究の仮説

自分や相手のことを考え話す活動や、他者と関わる機会を取り入れた活動を、児童・生徒の実態に応じながら工夫して行うことで、自他の理解を深め、他者と積極的に関わろうとする児童・生徒を育むことができるだろう。

### 研究の方法

- | 【基礎研究】  | 【実践研究】  |
|---|---|
| (1) 障害のある児童・生徒の自他の理解に関する基礎事項を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説自立活動編</li> <li>・ 自尊感情測定尺度(東京都版)「自己評価シート」「他者評価シート」</li> </ul> (2) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を作成する。 | (1) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を活用して、指導内容・方法を検討する。           (2) 授業実践(検証授業4回実施) |

### 検証の方法

- 1 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を用いて実態を把握し、実態に応じた指導内容・方法の検討
- 2 児童・生徒の変容から、指導内容・方法の考察(検証授業)
- 3 検証授業から、研究主題に迫るための指導内容・方法の整理・考察

## VI 研究の内容

### 1 基礎研究

(1) 障害のある児童・生徒の自他の理解に関する基礎事項を整理する。

#### ア 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編から、自他の理解に関する内容を確認した。

自立活動の内容6区分のうち3「人間関係の形成」では、関わりの基礎を育み、自分の得意不得意や行動の特徴などの理解、状況に応じた行動をとることを通して、集団に意欲的に参加することが具体的に示されていた。「自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う」という観点が強調されていることから、自他の理解に関する評価項目の設定及び授業実践が必要であると考えた。また、ここでは「人間関係の形成」以外の区分とも関連させることが重要であると示されている。区分2「環境の把握」自己の過敏さや認知の偏りを理解して他者と接したり支援を要請したりすることや、区分6「コミュニケーション」場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションを展開しようとするなど、「人間関係の形成」以外の他の区分との関連性を意識しながら、関わりの基礎を育て、状況に応じて柔軟に他者と関わられるような話し合い活動を工夫していくことが必要であると考えた。

#### イ 自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」と「他者評価シート」について

児童・生徒の自他の理解と他者との関わりの状況に関して、東京都教職員研修センターが平成20年度より行った「自尊感情や自己肯定感に関する研究」から「自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」（以下「自己評価シート」という。）を参考にした。

「自己評価シート」は、学校教育で求められる自尊感情の傾向を分析し、発達段階に応じて適切に把握できるように作成されたものである。22の質問項目があり、それを「A自己評価・自己受容」「B関係の中での自己」「C自己主張・自己決定」の三つの因子で区分した構成になっている。一つの質問に対して、「思う」「思わない」を四つの段階で示した回答例から自分の気持ちに一番近い答えを選び、集計結果から傾向をグラフから読み取ることができるようになっている。

「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第4年次）」（東京都教職員研修センター 平成23年度）では、特別支援学級や特別支援学校等の児童・生徒や就学前の幼児等、「自己評価シート」による自己評価を行うことが難しい子供の自尊感情の傾向を把握することを目的として、自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」が開発された。「他者評価シート」は、子供の状況を把握するための行動観察シートであり、「24項目」で構成されている。これらは、東京都教職員研修センターが研究協力校の授業等を観察し、観察した行動等を相関関係に合わせて分類・整理し、24項目にまとめたものである。さらに、これらの24項目を因子分析し、「安定した学校生活を送るための六つの観点（①人への働きかけ、②大人との関係、③友達との関係、④落ち着き、⑤意欲、⑥場に合わせた行動）」に整理されている。

(2) 自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目を作成

学習指導要領解説及び研修センターによる先行研究に示された自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」と「他者評価シート」を元に、児童・生徒が自分の現在の状態を確認するための「自他の理解や他者との関わりに関するチェック項目」（以後、チェック項目）を作成した。シートを作成するにあたり、実際に特別支援学校高等部の生徒に「チェック項目」（図1）を使って実態把握を行った。その際、「A自己評価・自己受容」が著しく低くなった生徒と3因子が全体的に高くなった生徒の二極化が見られた。その理由として、対象生徒の実態が「太田 Stage 評価」の StageⅢ 1～StageⅤ以上と発達段階に幅のある集団であったことが考えられる。発達段階が高くなるほど、「A自己評価・自己受容」が低くなる傾向が見られた。このことについて研修センターによる先行研究においては「発達段階が進むにつれ、思春期・青年期に多く見られる傾向である」と記述があり、順当な

No	項目	目指す児童の姿についての例				
1	自分の得意なこと、苦手なことがわかる。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の得意なこと・苦手なことに気付く。</li> <li>○ 自分の得意なこと・苦手なことを知る。</li> <li>○ 自分の得意なことを生かそうとする。苦手なことについて、援助を求めようとする。</li> <li>○ 活動の中で、自分の得意なことを生かす。苦手なことについて援助を求める。</li> </ul>
2	自己の理解 集団の中で、自分の行動をコントロールする。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団の中で、自分の行動を調整しようとする。</li> <li>○ 集団の中で、決まり事を守ろうとする。</li> <li>○ 時間などの決まり事を守って、行動をすることができる。</li> <li>○ 場面に応じた行動をすることができる。</li> </ul>
3	自己の理解 自分の行動を自分で決める。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師や友達と相談して、自分の行動を決めることができる。</li> <li>○ 自分の考えや、それに近いものを選び、選択肢の中から選べる。</li> <li>○ 自分の行動について、考えをもつことができる。</li> <li>○ 自分で考えて、行動を決めることができる。</li> </ul>
4	自己の理解 自分と他者の違いが分かり、違いを大切にする。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と相手の違いに気付く。</li> <li>○ 自分や相手の好き嫌い、得意不得意が違うことがわかる。</li> <li>○ 自分や相手の好き嫌い、得意不得意について理解する。</li> <li>○ 互いの良いところを生かそうとする。</li> </ul>
5	他者の理解 他者の意見を受け止める。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の意見に注意を向ける。</li> <li>○ 相手の意見を聞くことができる。</li> <li>○ 相手の意見を聞いて、理解しようとする。</li> <li>○ 相手の意見を聞いて、理解できる。</li> </ul>
6	他者の理解 他者の心情を理解する。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の気持ちを気に留めることができる。</li> <li>○ 相手の気持ちを考えることができる。</li> <li>○ 相手の気持ちを考え、理解しようとする。</li> <li>○ 相手の気持ちを理解できる。</li> </ul>
7	他者の理解 友達のことを考えて行動・発言する。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達のことを考えることができる。</li> <li>○ 友達のことを考えて、行動・発言しようとする。</li> <li>○ 友達のことを考えて、行動・発言できる。</li> <li>○ 友達の意図を読み取って、行動・発言できる。</li> </ul>
8	他者と関わろうとする行動・態度 自分から人に関わろうとする。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の働きかけに応じようとする。</li> <li>○ 相手の働きかけに応じる。</li> <li>○ 相手に自分から働きかけようとする。</li> <li>○ 相手に自分から働きかけ、一緒に活動する。</li> </ul>
9	他者と関わろうとする行動・態度 自分の思いや意見を何らかの手段で表現する。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の意見を言葉にしたり、書いたりできる。</li> <li>○ 自分の考えを、相手に伝えることができる。</li> <li>○ 自分の考えを、はっきりと相手に伝えることができる。</li> <li>○ 相手の目を見ながら、自分の考えを話すことができる。</li> </ul>
10	他者と関わろうとする行動・態度 ルールを守って行動する。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ルールを意識する。</li> <li>○ ルールを理解できる。</li> <li>○ ルールを守ろうとする。</li> <li>○ ルールを守ることができる。</li> </ul>
11	他者と関わろうとする行動・態度 集団の中で、自分の行動をコントロールする。雰囲気になじんでいる。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達のために、自分の役割を果たそうとする。</li> <li>○ 友達と仲良く活動できる。</li> <li>○ 友達と協力して活動できる。</li> <li>○ 雰囲気作りを意識し、楽しく活動できる。</li> </ul>
12	他者と関わろうとする行動・態度 集団の活動に合わせて行動する。	4	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 決まった内容がわかる。</li> <li>○ 決まった内容がわかり、守ろうとする。</li> <li>○ 決まったことを守ることができる。</li> <li>○ 場面に応じて、協力することができる。</li> </ul>

図1 チェック項目

結果であったといえる。「自尊感情や自己肯定感に関する意識調査」（東京都教職員研修センター 平成20年度）によると、3因子が全体的に高くなった生徒について、「小学校第1学年から第3学年では、特に自尊感情は高い傾向にあることから、3因子が大きくなる。また、個別には、発達段階において自己を客観視できていない場合も考えられる」としていた。このことから知的障害の児童・生徒の実態によっては、自ら「自己評価シート」を活用することが難しい場合があることが分かった。また「他者評価シート」の24項目のすべてが本研究主題の「自己の理解」「他者の理解」「他者との関わり」に関するわけではないので、関するものに絞り、「自己評価シート」とともに分類・整理することとした。「他者との関わり」については、学習指導要領の自立活動の「3 人間関係の形成」についての項目も参考にして設定した。

児童・生徒が自他の理解を深め、他者と関わろうとするためには、どのような力を伸ばしていくことが必要であるかを的確に捉え、個々の実態に即した目標を設定し、児童・生徒自身が目標に向かっていこうとすることが重要である。単元の前後での変容の様子を適切に把握するため、3～4段階での段階別評価を用いた。また、作成したチェック項目を活用するにあたり、児童・生徒の個々の実態に基づいた評価となるよう、評価する児童・生徒について、「目指す児童・生徒の姿の例」を示した。例を参考に授業における目標を設定できるようにし、様々な発達段階の児童・生徒に活用できるようにした。

## 2 実践研究

### (1) チェック項目を基にした振り返りシートの作成

作成したチェック項目を基に、授業等で活用するための「振り返りシート」を、児童・生徒の実態や教科等の特性に応じて作成することとした。振り返りシートは、児童・生徒に授業を振り返らせるための評価様式である。

振り返りシートは、単元の学習内容に合わせてチェック項目から必要な項目を抽出し、単元の学習内容と児童・生徒の実態に合わせた表記内容にしたものである。振り返りシートを活用することで、児童・生徒の実態を把握し、行動面の変容を見ることができるようにした。また、授業の導入で提示することで、児童・生徒が学習目標の達成度を理解し、学習目標を意識したり意欲を高めたりすることができるようにした。授業の振り返りでも振り返りシートを用いることで、児童・生徒が学習活動のまとめに取り組んだり、児童・生徒同士で学習目標の達成度を確認し合ったりする活動においても有効であると考えた。

授業においては、導入や振り返りの際に、自他の理解や他者との関わりについての振り返りシートを継続して活用した。それにより、他者を意識した発言をするようになったり、友達と関わろうとしたりする児童・生徒が増えた事例があった。一方、振り返りシートを継続して使うことにより、項目の内容を理解し客観的に評価できるようになり、評価を下げる児童・生徒も見られた。

(2) 検証授業

ア 検証授業① (小学校特別支援学級)

(7) 授業の概要

学級活動(1) 学習指導案			
対象	: 第1学年～第3学年 7名		
内容のまとめ	: 学級活動(1)「つばき学級をよりよくしよう」		
議題	: 「室内遊びを考えよう」		
目標	: 学級目標やきまり、友達のことを考えて、室内遊びの内容を決める。		
評価規準:			
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"><li>・話し合いの約束を守って自分の意見を発表したり、友達の意見をよく聞いたりする。</li><li>・みんなが納得することのよさや大切さを知る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達や学級全体のことを考えて意見を発表している。</li><li>・友達のよさや頑張りを見付け、伝えている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・友達と協力して、すすんで話し合いや活動に取り組もうとしている。</li><li>・他者との違いを認めながら活動に取り組もうとする。</li></ul>	
指導計画(7時間扱い):			
時	議題	主な学習内容・活動	
第一次 (第1時)	つばき学級をよりよくしよう	学校生活を振り返り、よかったところや課題を考える。	
第二次 (第2時～第4時)	10月の誕生日会をしよう	誕生日会の内容や役割について話し合い、決定する。	
第三次 (第5時)(本時)	室内遊びを考えよう	休み時間の室内遊びを考える。	
第四次 (第6時～第7時)	お楽しみ会をしよう	お楽しみ会の内容や役割について話し合い、決定する。	
授業の展開(第三次 全7時間中の第5時間目):			
	主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時の振り返り</li><li>・本時の学習の流れや目標の確認</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・振り返りカードの顔写真を確認し、相手意識をもてるようにする。</li></ul>	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"><li>・議題や提案理由の確認</li><li>・話し合い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・動画や写真を見て議題の理解を深めやすくする。</li><li>・学級目標やきまりを掲示し、それらを基に考えるよう促す。</li><li>・配慮が必要な友達のことなどを考えた意見を紹介し、友達への意識をもちやすくする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・観察</li><li>・動画撮影</li></ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"><li>・決定したことの確認</li><li>・振り返り</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業を録画した動画を見せながら、活動を振り返る。</li><li>・読み書きが難しい児童には代読や代筆の支援を行う。</li><li>・振り返りカードを基に一人一人のよかったところを発表し賞賛し合うようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・振り返りシート</li><li>・観察</li><li>・動画撮影</li></ul>

(イ) 研究について

話し合い活動や振り返りを工夫することで、自他の理解を深め、他者と積極的に関わろうとする児童を育むことを目指した。話し合い活動では、動画や写真を活用することで、児童が議題の理解を深めたり、より相手を意識して考えたりすることができるようにした。また、自他の理解や他者との関わりについての目標を意識付けするために、振り返りシート（図2）に、よかったところを見付ける相手の顔写真や、自他の理解や他者との関わりについて確認した。さらに、まとめの中で、振り返りシートに記入された自分や友達のよかったところや頑張りを学級のみinnで共有し、賞賛し合う活動を継続して行った。それにより、自他のよさや頑張りを認め合うことのよさを味わい、他者と関わろうとする意欲を高められるようにした。

ふりかえりシート なまえ ( )			
じぶんの よかったところ がんばったこと 	・はっぴょう・こえ・せい・しずかにきく ・ゆずった・ともだちをほめた・じゅんばん ・あいさつ・りゆうをいえた ・てをあげた		
ともだち 	対象児童の顔写真		
じぶん	よいところやたくさん 良かったことを 見つけた。	よいところを 見つけた。	よいところは 見つからなかった。
ともだち	ともだちのことを かんがえて はっぴょうした。	じぶんの やりた いことを はっぴょうした。	かんがえずに はっぴょうした。
かわり	ともだちと はな しかったり、なか よくしたりした。	ともだちと なか よくした。	ひとりて かつど うした。
じゅぎょう	『なかよく・たの しく』なる おた のしみかきを かんがえた。	おたのしみかきを かんがえた。	かんがえなかつ た。

図2

(ウ) 結果

話し合いの中で、友達の意見を正しく理解することが難しい児童は、誤解や思い込み等もあるため、自分の考えに固執する場面も見られた。一方、導入や振り返りの際に、自他の理解や他者との関わりについて振り返る項目を載せた振り返りシートを継続して用いたことで、他者を意識した発言をするようになったり、友達と自ら関わろうとしたりする児童が増えた。また、動画や写真を活用することで、話し合いのテーマを理解し相手のことを意識して意見を言えるようになったり、授業の振り返りで他者の頑張りがよさを自分の言葉で具体的に伝えられるようになったりする児童もいた。

(エ) 考察

児童が実態に合った目標を意識して学習に取り組み、振り返りの中で友達と互いに頑張りがよさを認め合う経験を積み重ねることが、自他の理解を深め他者と関わろうとする児童を育む上で効果的であった。また、動画や写真等を活用したことで、相手意識をもって話し合い活動に取り組む児童が増えたことも成果であった。話し合い活動をさらに充実させるためには、教員の発問や友達の意見を適切に理解することが難しい児童に対し、実態に応じた支援を更に充実させていく必要があることも明らかになった。また、授業を重ねる中で、2名の児童は「他者の理解の項目」で自己評価が下がった。これは、常に自身により評価を付ける傾向があった児童が、内容を理解し客観的に評価できるようになってきた成果と考えられる。このことから、自己評価は、一人一人の実態に合わせた変容の見取りを必要とし、自己評価と合わせて教員による評価も重要であると言える。

イ 検証授業② (小学校特別支援学級)

(7) 授業の概要

生活単元学習 学習指導案			
対象：第3学年～第6学年 12名			
単元名：「楽しい宿泊学習にしよう」			
単元の目標：宿泊学習への活動に友達と協力しながら意欲的に取り組んでいる。			
単元の評価規準：			
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共の乗り物や施設などの正しい使い方を理解して、利用している。</li> <li>自分でできることは自分で取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と協力して、イベントの準備などに取り組んでいる。</li> <li>話し合い活動で、自分の意見を話したり、友達の意見を聞いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで決めた自分の係にすすんで取り組んでいる。</li> <li>イベントに楽しく取り組んでいる。</li> </ul>	
単元の指導計画 (15時間扱い)：			
時	小単元名	小単元の目標	
第一次 (第1時～第3時) (本時は第3時)	宿泊の概要を知ろう	宿泊学習の行先、交通手段(電車・バス)、日時、一緒に大まかな見通しをもとう。	
第二次 (第4時～第7時)	宿泊学習について3年生に伝えよう	グループごとに、発表の準備をしよう 3年生に分かりやすく伝えよう。	
第三次 (第8時～第11時)	イベントの準備をしよう!	イベントの役割分担を決めて準備しよう 係の台本を作り、練習をしよう。	
第四次 (第12時～第15時)	宿泊学習の振り返りをしよう。	宿泊学習について振り返り、低学年に宿泊について伝えよう。	
授業の展開 (第一次 全3時間中の第3時間目)：			
	主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返り</li> <li>本時の目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシートを確認し、授業(活動)で意識させたい観点を把握しやすくする。</li> </ul>	
「電車やバスなどの公共の乗り物のルールについて考えよう」			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通機関(バス・電車)の乗り方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電車内のイラストを大型モニターに映すことで、イメージしやすいようにする。</li> <li>グループの意見を全体に共有しやすいように、デジタル機器を活用する。</li> <li>全体で乗り方を確認した後、個人での活動に取り組むようにする。</li> </ul>	発表 ワークシート 発言
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の振り返り 振り返りシートで本時の振り返りを行う。</li> <li>教師の説話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシートを活用する際、児童の実態にあわせた言葉掛けや支援をする。</li> <li>説話を通して公共交通機関にはそれぞれのルール(マナー)があることを確認できるようにする。</li> <li>優先シートがあることについても気付けるような説明をする。</li> </ul>	振り返りシート

(イ) 研究について

生活単元学習の授業で、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりする活動や振り返り活動を工夫することで、自他の理解を深め、他者と積極的に関わろうとする児童を育むことを目指した。ペア活動等で意見を伝え合う活動の前に、個別に配布されたプリントに自分の気付いたことを書かせること、自分の意見と友達の意見を交換しやすくするために文字の色を指定して記入するように工夫した。また、単元の評価規準に加えて自他の理解や他者との関わりの観点を含めた振り返りシート（図3）を作成した。実態が異なる児童が振り返りを共有できるように、よいと感じた友達の名前を書く「きょうのMVP」という欄を作成した。

ふりかえりシート			
年 名前 ( )			
	 	 	 
のりかた	でんしゃやバスの たたいのりかたが わかった。	でんしゃやバスの のりかたが わかった。	よくわからなかった。
じぶん	おもっている ことを たくさん はな すことができました。	おもっている ことを すこし はなすこ とができました。	おもっている ことを いえなかった。
ともだち	ともだちの はなしを すなおに きくことが できました。	ともだちの はなしを すこし きくことが できました。	ともだちの はなしを ぜんぜん きくことが できなかった。
きょうの MVP ( ) さん			

図3

自分だけの振り返りに留まらずに、他者からの自分への評価を知り、認め合う機会を設けた。他人から自己について客観的な評価を受けることで自分自身を再認識する機会を設け、次時の活動への意欲を高められるようにした。

(ウ) 結果

導入や振り返りの際に、自他の理解や他者との関わりについて確認できる振り返りシートを用いることで、学習の目標が明確になり児童も意欲的に取り組むことができた。また、単元を通して振り返りシートに取り組むようにすることで、自分や他者（振り返りシートではともだち）への理解を育む機会となり、自然に自他の理解に対して意識が向くようになってきた。「きょうのMVP」では、友達からの評価を受けることができ、自己肯定感の高まりや、学習への意欲につなげることができた。また、一人1台端末を活用してグループの意見交換を行うことで、児童が意見を持ち、他者の意見と比べやすくなったため、活発な話し合い活動を促すことにつながった。

(エ) 考察

学習目標を設定する際、評価項目一覧（表1）から児童の実態に応じて必要とする項目を選択して、振り返りシートに取り入れた。その結果、授業実践を通して、自他への理解や他者への働きかけに関する力を育む手だてとなった。評価項目に基づいて作成した振り返りシートを活用することで、教員が児童の実態を客観的に捉えることができた。また、継続して取り組むことで自他への理解や他者への働きかけに係る能力も育成することができた。今後、振り返りシートの項目をチェックするだけでなく、文章などで表現できる児童には、記述することができるように欄を付け加えるなどのシート自体の改善が必要である。

ウ 検証授業③ (中学校特別支援学級)

(7) 授業の概要

道徳 学習指導案

対 象：第2・3学年 22名

主題名：嫌われるのを恐れる気持ち (A(3) 向上心、個人の伸長)

目 標：自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己・人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本時の評価の視点：

- ・「僕」が個人であることに気付き、その個性や個性を伸ばす生き方について多面的・多角的に考えようとしているか。
- ・「僕」の悩みを、生徒が自分の個性や生き方と重ねて考え、これからの生き方に活かしていこうとしているか。

年間指導計画 (35 時間扱い)：

時	小単元名	小単元の目標
第一次 (第1時～第13時) (本時は第7時)	「自覚をもって」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級生として生活することができる。</li> <li>・いじめを許さない心について考えることができる。</li> <li>・自分のことを知ることができる。</li> </ul>
第二次 (第14時～第28時) (本時は第20時)	「広い視野で」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルについて考えることができる。</li> <li>・働くことについて考えることができる。</li> <li>・多様性について考えることができる。</li> <li>・環境について考えることができる。</li> <li>・自分のよさを伸ばすことができる。</li> </ul>
第三次 (第29時～第35時)	「よりよい生き方を求めて」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最上級生となる自覚をもつことができる。</li> <li>・よりよい生き方を目指すことができる。</li> </ul>

授業の展開 (全 35 時間中の第7時間目)：

	主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分が成長する生き方について考えることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に対して自分のことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標について考えさせる。</li> <li>・嫌だと思えるところを考えさせることで授業に対してマイナス思考にならないように言葉掛けする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉掛けなどによる学習状況の調整。</li> <li>・自分の性格について考えている。</li> </ul>
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の内容を確認</li> <li>・中心発問 「自分を高めていく生き方とは、どんな生き方だと思いますか」</li> <li>①個人で考える。</li> <li>②グループになって考えを深める。</li> <li>・中心発問についてもう一度考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の表現や言葉を簡単にすることで、理解しやすくする。</li> <li>・教材を読み聞かせする。</li> <li>・発問について考えを深めやすいようにする。</li> <li>①自分視点 他者視点 社会的視点を取り入れるように言葉掛けをする。</li> <li>②発問の答え方は「～生き方」で統一させる。</li> <li>・中心発問と同じ発問をすることで自分の考えを振り返りやすくする。</li> <li>・一人1台端末を活用することで、ワークシートの内容を一覧で見ることができ、考えが共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉掛けなどによる学習状況の調整。</li> <li>・ワークシート</li> <li>・グループ活動</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で気付いたことなどを全体で共有</li> <li>・振り返りシート、なるほどスペースの記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点の広がり共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートによる自己評価と他者評価</li> </ul>

(イ) 研究について

特別の教科道徳の授業を通して、自他の理解を深め、他者と関わろうとする態度を育むための工夫をした。自他の理解を深めるために、中心発問に対して自分で考える時間と、グループで考えを共有する時間を設定した。これによって、自他の考え方の違いに気づき、考える視野を広げ深めることができた。

また、授業の最後に「中心発問についてもう一度考える」時間を作ったことで最初の自分の考えを振り返ることができた。他者理解や関わりについては、意見交換ができるように教員がサポートすることで自分と相手の考えの違いに気付くことができた。また、振り返りシートに相手の考えを記入する「なるほどスペース」や自他の理解や他者との関わりについての「評価項目」を、授業の振り返りで確認した。「なるほどスペース」に書かれた他者からの評価を紹介することで、自他の違いや成長を認め、他者と関わろうとする生徒を育むための指導ができるようにした。

(ウ) 結果

教員からの言葉掛けや、授業を重ねることで自己の考えに向き合い、表現することができた。また、授業の最後に「中心発問についてもう一度考える」時間を作ったことで、自分の考えを客観的に見つけ整理することができるようになり、ワークシートなどに表出することができた。振り返りシートと「なるほどスペース」を継続して活用したことで、グループ活動での発言を聞こうとする姿勢が見られた。また、自分の意見を分かりやすく具体的に伝えようとする主体的・協働的な学びを意識させることができるようになった。

また、振り返りシートを活用したことで、教員も生徒の変容を見取ることができ、効果的な指導方法につなげることができた。ワークシートは記入する用紙と一人1台端末に入力する二つの方法を行った。これによって、文字を書くことが苦手な生徒が考えを表現しやすくなり、グループだけでなく他の生徒の意見や考えも見ることができ、考える視点を広げることができた。

(エ) 考察

検証授業を実施する前は「中心発問について、もう一度考える」ことで、自他の理解を深めさせることが難しく、自分の考えが表現できずに周りの生徒に合わせてしまう傾向があった。しかし、本研究で作成した振り返りシートを活用することで、自分の考えを表現することが苦手な生徒に選択肢を示すことができ、自他の理解を深めることができた。また、授業を重ねることで、振り返りシートの評価が高くなる傾向も見られるようになった。

このことから発達段階や支援の方法が異なる生徒が、同じ発問に対して自分の考えをもち他者との関わりの中で自他の理解を深めていくために、振り返りシートを活用することや「中心発問について、もう一度考える」ことが効果的であることが分かった。

エ 検証授業④ (特別支援学校高等部)

(7) 授業の概要

作業学習 学習指導案

対象：第2学年 14名

単元名：「作業販売・展示会に向けて」

単元の目標：・役割や目標、課題を意識して作業に取り組み、周囲からのアドバイスや働きかけを受け入れながら改善しようとしたり、自分から報告や相談したりできる。  
・働くための態度やマナーを身に付け、自己の役割を果そうと自分からすすんで作業に取り組んだり、仲間と協力しながら取り組んだりすることができる。

単元の評価規準：

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する工程と必要な道具を理解し、自分で準備や片付けができています。</li> <li>・道具の扱い方と作業手順を覚えて安全に作業を進めることができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場面、状況に応じて挨拶や返事、報告、連絡、相談ができています。</li> <li>・自分の課題や目標を意識し、自ら作業を進めたり、改善しようとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する工程の仕事に自分から取り組み、最後まで作業を続けようとしている。</li> <li>・同じ作業班の仲間と協力し合いながら作業に取り組もうとしている。</li> </ul>

単元の指導計画 (47 時間扱い)：

時	単元名	単元の目標
第一次 (第1時～第6時)	自分の役割を知ろう	自分のできることで役割分担をして、作業の工程や手順を覚える。
第二次 (第7時～第30時) (本時は第27時)	製品作りと品質向上の方法を考えよう	よい製品を作るためにそれぞれが考え、相談し合いながら製品作りに取り組む。
第三次 (第31時～第39時)	品質確認し改善して納品しよう	製品の品質確認をして、改善点について検証し、改善した製品を納品する。
第四次 (第40時～第44時)	自分たちの仕事を見てもらおう	作業販売・展示会(実演)で、班の仲間と協力して作業に取り組むことができる。
第五次 (第45時～第47時)	作業販売・展示会を振り返ろう	自分の仕事の取り組みや仲間の仕事の様子を振り返り、よい点について発表できる。

授業の展開 (第二次 47 時間中の第27 時間目)

	主な学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り</li> <li>・準備</li> <li>・本時の目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールや配置、役割分担、目標等は前方のホワイトボードへ明示する。</li> <li>・担当部署ごとの出来高や目標を話し合いで決められるようにメンバー構成を設定する。</li> </ul>	・チェック項目による行動観察
展開 110分 (休憩10分を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の品質確認改善点の話し合い</li> <li>・作業エコバック制作</li> <li>・休憩 トイレ、水分補給等</li> <li>・片付け、清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい製品、不良品の見本を用意し、分かりやすく示す。</li> <li>・改善点についてヒントや発言のきっかけを提示する。</li> <li>・各工程の生徒同士がコミュニケーションを図り、協働できる場面を設定する。必要な部材を依頼したり、仕上がった製品を次の工程へ適切に渡したりできるよう、支援をする。</li> </ul>	・動画撮影、チェック項目による行動観察
まとめ 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返り</li> <li>・次回の目標</li> </ul>	・振り返り項目のある作業日誌を使って具体的な行動の振り返りができるようにする。	・動画撮影、行動観察

(イ) 研究について

特別支援学校高等部の作業学習サイクル班において、作業販売・展示会に向けてよりよい製品を作るために、話し合い活動を設定する中で、自己と他者の理解を深めると共に他者に関わろうとする態度を育むことを目指した。これまで困ったときの相談や作業終了の報告は教員に行っていた。他者に関わろうとする態度の育成を目指し、教員だけではなく他の生徒に相談や報告をするように製品の製作工程を分業化し、生徒同士で製品の完成を目指していきけるようになった。また担当部署ごとに出来高や品質の目標について達成できる方法についての話し合い活動を設定した。

◆目標				
改善する点			良かった点	
◆今日の反省 ※できた項目に○をしよう。				
挨拶	お辞儀ができた	目を合わせてお辞儀ができた	来客者に気付いて挨拶できた	自分から入室時や退室時、来客者へ挨拶できた
準備付け	助けてもらってできた	自分でできた	仲間に協力して進めることができた	全体で使う物を優先的に進めることができた
報告・相談	先生にうながされた	自分からできた	気付いたことをすぐに報告や相談できた	相手の様子を見てタイミングを考えて報告や相談できた
協力	一人で取り組んだ	仲間に声をかけられて協力して取り組めた	自分から声をかけて協力して取り組めた	仲間に相談したり、助けを求めたりしながら進めることができた
◆次回の目標				

図 4

自己理解や他者理解、他者と関わろうとする行動・態度について振り返りと次回の目標設定ができるように、チェック項目を参考に振り返りシートとして作業日誌（図 4）を作成した。

自己理解や他者理解、他者と関わろうとする行動・態度について振り返りと次回の目標設定ができるように、チェック項目を参考に振り返りシートとして作業日誌（図 4）を作成した。

(ウ) 結果

授業を重ねるうちに生徒間で報告や相談をしながら作業に取り組む様子が増えてきた。中には、自分の担当の仕事が次の仲間に引き継がれることでモチベーションが高まり、「〇〇さんのために頑張る」と言って活動する生徒も見られた。知的障害が軽い生徒の行動変容として、これまでは人と関わることが苦手一人で黙々と作業に取り組んでいたが、エコバックのデザイン担当になり、ステンシルで模様を入れる生徒からの相談に対応していくうちに、自分から他の生徒の準備を手伝ったり、ステンシルの工程のアドバイスをしたりするようになった。障害の重い生徒たちもこれまでは担当教員のみに対して報告や援助要請を行っていたが、言葉カードや VOCA（音声出力装置）を使って、自ら他の生徒へ報告や相談ができるようになっていった。教員主導活動から生徒間で協力し合う活動への変容が見られた。

(エ) 考察

これまでは、生徒が働く力を個々に習得していく学習が中心となっており、より協働的な学習を行うことが課題であった。今回の検証授業を通して、チェック項目を参考にした振り返りのできる作業日誌に改善したことで、自己理解が深まった。しかし、作業日誌の内容を教員が聞き取ったり代筆したりする必要があるため、振り返りに時間を要することが課題である。

## VII 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 自己理解・他者理解を深めるためのチェック項目の作成について

従来の「自己評価シート」を使って事前に実態把握した際には、項目数の多さや、評価項目を一つずつ平易な言葉に読み替える必要があった。知的障害のある児童・生徒にとっては取り組むこと自体に負担が大きいという課題が挙げられた。しかし、チェック項目を自他の理解に関するものに精選し、取り組ませる際に指導者が児童・生徒の実態に応じた表現に書き替えることで、指導内容や児童・生徒の実態に応じて柔軟に活用できるものになった。

#### (2) 振り返りシートの作成と活用について

チェック項目を児童・生徒の実態と照らし合わせ、指導者が項目を読み替えたものを「振り返りシート」として授業の中で活用した。そのことにより自己の課題を具体的に示しながら単元に取り組ませることができた。指導者からの客観的な評価と児童・生徒の自己評価を照らし合わせ、総合的に自己理解・他者理解の変容を見取ることの重要性が分かった。

また自己評価には、児童・生徒の実態に応じた一人1台端末の活用が有効な場面があった。チェック項目をより記入、評価しやすいものにするためにも、一人1台端末での評価や、評価用紙による評価の、それぞれのよさや取り組みやすさを鑑み、最適な方法を選んでいけるようにしていく必要がある。

#### (3) 学習中での話し合い活動の工夫

授業の中で、写真や動画を用い、児童・生徒にとって身近な生活場面を想定して取り組めるようにしたことで自分の意見を持ち、よさを認め合いながら話し合う活動につながり、大変効果的だった。また、話し合いの中では一人1台端末を活用して資料を共同編集したり意見交換したりする活動を取り入れた。このことにより児童・生徒が自分の意見を持ち、他者の意見に共感したり異なる意見を受け入れたりして話し合い活動に取り組む姿が見られた。児童に取り組ませた振り返りシートの内容を学習履歴として蓄積し、振り返らせることも、自己理解を進めていくうえで有効であると考えた。

また、本研究では「目指す児童・生徒像」の例をいくつか挙げたが、今後本研究を更に広め、多様な学習場面において効果のあった事例をチェック項目の例として周知することで、自他の理解を深めるためのチェック項目の活用機会が増えていくものと考えた。

### 2 研究の課題

チェック項目の活用によって、児童・生徒に自己評価による振り返りの様子が見られるなどの成果が見られた。しかし、チェック項目の活用に当たっては、発達段階や児童・生徒の実態によっては、時間がかかったり支援者が代筆しなければならなかったりする必要がある、今後の課題として残った。児童・生徒が自分を振り返る活動が継続的に進められるように、より効果的な活用方法の検討や内容項目の更なる改善が必要である。また、学年が上がるにつれ、チェック項目による選択的評価だけでなく記述による評価の方が、児童・生徒の思いや細かな変化を見取りやすく、実態に適している場合もあった。発達段階や児童・生徒の実態に応じて取り組み方を柔軟に変更するなど、評価方法に更なる検討が必要である。

## 令和5年度 教育研究員名簿

### 特別支援学校等・知的障害教育

学 校 名	職 名	氏 名
文京区立関口台町小学校	主任教諭	酒井大樹
世田谷区立八幡中学校	主任教諭	福澤達志
練馬区立光が丘第八小学校	主任教諭	◎伊地知 哲
小平市立小平第一小学校	主任教諭	岩本孝明
東村山市立東萩山小学校	主任教諭	古川華世
東久留米市立西中学校	主任教諭	坂口一彦
東京都立練馬特別支援学校	主任教諭	○福田啓人

◎ 世話人    ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

指導主事 津久井 翔希

令和5年度  
教育研究員研究報告書  
特別支援学校等・知的障害教育

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849